

1年生が「高志学」嶺南宿泊研修を行いました

5月16日（火）～18日（木）の3日間、1年生が嶺南宿泊研修を実施しました。「疑問の球を打ち返せ 嶺南の知識王 ～9期生 Quality～」をスローガンとして、親睦を深めると同時に、これから始まる高志学に向けて学びの基礎力を培う研修となりました。

第1日目（5/16）

【手筒山登山・金ヶ崎城址後】

最初の目的地は、敦賀市にある天筒山。山頂展望台から市街地、敦賀湾、敦賀半島、中池見湿地が一望できる山です。登りは予想以上のハードさでしたが、爽やかな風もあり、快晴のパノラマ風景にみんな大満足の笑顔！下り道では、歴史の舞台となった金ヶ崎城址跡・金崎宮を通り、道中歴史好きな生徒達の解説が繰り広げられました！



〔ボート・レザークラフト・クラスレクリエーション〕

3日間お世話になる三方青年の家に到着し、入所式昼食の後には、ローテーションでクラス毎に「ボート」「レザークラフト」「クラスレクリエーション」を行いました。初体験の生徒が多くドキドキしていたボートでしたが、少し練習した後は、風光明媚な三方五湖の中を6人で協力レスイスイ進んでいました。

〔飯盒炊さん・カレー作り〕

夕方からは飯盒炊さんを行いました。学年全体で8班、炎係・飯係・具材係に分かれ準備し、カレーを作りました。実行委員が調べた作り方に従って手際よく調理を進めていましたが、特に開けてみるまで中の様子が分からないご飯を担当した生徒達は、手を合わせ祈りながら鍋の蓋を開け、炊き上がったピカピカのご飯に歓声を上げていました。できあがった後は、三方湖畔や芝生の上でカレーを存分に堪能し、ゆったりした時間を過ごしていました。

夜はお風呂に入ったり、記録をまとめたり、定期考査の学習をしたりしました。初日は体力が必要な場面が多く、生徒達もしっかり休んでいたようです。



第2日目 (5/17)

三方五湖の見渡せる会場での朝の集いから始まりました。校歌斉唱に始まり、学級旗の披露や体操係考案の朝の体操などをしました。

〔高志学：学びの技〕

一年生はこれから始まる高志学に向けて、「問いを立てる」練習をしています。最初に学習班の生徒から、「金ヶ崎」「縄文博物館」「年縞博物館」についてスライドを用いて説明を受けました。その上で、6人グループに分かれ、たくさんの問いをつくり、KJ法を用い30人で良い問い・深まる問いについて考えていきました。

ここでもクラスを解体し、特に役割などを決めず生徒の主体性に任せる形になったのですが、司会・記録などの役割分担が自然発生した上で、分類の仕方や問いの本質について議論が生まれており、今後の高志学が楽しみになる姿が多く見られました。

その後学年レクリエーションでは、レク係主導で「じゃんけん列車」や「ピンポン球リレー」を行い、盛り上がっていました。



〔若狭三方縄文博物館〕



縄文博物館ではクラスローテーションで3つの活動を行いました。

博物館見学では、クラスを2グループに分け、講師の先生の案内・解説のもと館内を巡りました。館内には実物もたくさん展示されており、漆工芸や織物、船作りなど思っていたよりも高度な文化があり、自然に敬意を持って大切にしていた縄文時代の生活に驚いていました。生徒たちは午前で考えた問いを生かし、積極的に質問しメモを取っていました。



火おこし体験では、道具を使って摩擦力を利用し火種を作り、それをもとに火をおこしました。3人一組で行いましたがなかなか難しく、指導員の方に助言をいただきながら諦めず取り組み、火を付けることができました。もちろん縄文時代にこのような道具があるわけではなく、火の貴重さや重要性について身をもって実感していたようです。

勾玉作りでは、柔らかい滑石という石を砥石とサンドペーパーで削って形作り、無心に磨き上げ、完成作品を首に提げ誇らしげな様子でした。実際出土されている勾玉は翡翠などの硬い石だということで、製作の労力を考えると当時本当に大切なものだったということが分かったようです。

夜は、午前中立てた問いと午後からの見学を踏まえ、集中してレポート作成に取り組みました。



第3日目 (5/18)

〔福井県年縞博物館〕

最終日は2つのグループに分かれ活動しました。

年縞博物館では、学芸員の方による詳細な解説を聴きながら、外で実際の地形を体感したり、博物館内を丁寧に見学したりし



ました。初めて年縞を見る生徒も多く、気候によってプランクトンや花粉の厚みや色が変わること、遠く鹿児島県にある桜島の火山灰も飛んできていること、そしてそれがこの福井に残って偶然見つかって世界的に活用されていることに驚き、学問的価値の高さに深い関心を寄せていました。

また年縞博物館に隣接する福井県里山里海湖研究所の先生による塩分濃度の実験も行いました。水月湖は、若狭湾からの海水の流入と、はず川からの淡水の流入のバランスにより、水月湖内に塩分躍層が形成され、それが一つの要因となって年縞が形成されているということで、淡水の下に塩水が層となることを実験で確認しました。



さらに塩分を変えることによってより多くの層ができるのではないかと、新たな問いを考えている生徒もいました。

以上のように9期生の「高志学」嶺南宿泊研修はお天気にも恵まれ、大変充実した3日間の研修となりました。生徒達は最後までとても元気で、笑顔一杯でした。たくさんのプログラムを通し相互理解も深まり、一緒に学んでいく集団としての基礎を身につけることができた3日間でした。

